

◆ 平成26年度活動報告シート ◆

団体名：第5回低炭素まちづくりフォーラム in 埼玉実行委員会

代表者：実行委員長 荻原 洋志

URL：

1. 活動が必要とされた状況

県内の環境活動をさらに活性化されるため、個々の活動（点）がつなげて線になり面になるプラットフォーム的な場と役割が必要である。環境活動を行っているメンバー等が一同に介し、情報交換など交流の場を持つことにより、活動が推進されることが期待される。プラットフォームづくりの役割を果たすために「第5回低炭素まちづくりフォーラム in 埼玉」を開催した。今年度は、日本工業大学や宮代町の支援を受けることができた。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

第5回低炭素まちづくりフォーラム in 埼玉

～つながろう 広がろう エコの環～開催

実施時期 平成26年11月15日（土）

参加人数 154名

開催会場 日本工業大学 学友会館ホール、教室



- ・地球温暖化防止活動推進員、自治体、環境団体等を構成員とする実行委員会を組織し、企画・運営・準備を行った。フォーラム当日は講演会、分科会、今年度は特に日本工業大学内の環境先端技術の取組等の見学会も開催し、プログラムの拡充を図った。

<フォーラムの内容>

講演会 「涼しさを感じる街づくり～Passive Urban Design～」

成田 健一氏（日本工業大学建築学科教授 教務部長）

分科会 「エコ住宅」、「ごみ問題」、「里山と生きもの保全」、「身近なエネルギー」、「環境教育」以上5分科会

3. 活動の成果

- ・日本工業大学の全面的な支援があり、学生を始めとした多くの市民の参加が得られた。環境ネットワーク埼玉が事務局支援を行い、スムーズに活動を行うことができた。
- ・県内で環境保全活動を行っている人々が多数参加した。
- ・分科会テーマは宮代町の環境への取組紹介も入れたため、参加者の満足度も高かった。
- ・分科会では5つのテーマに分れ、テーマごとに深く話し合うことができた。分科会によってはワークショップ形式（参加型）で意見交換会ができ、参加者の満足度が高まった。
- ・報告書（60ページ、500部）を作成、参加者はより詳細に内容を把握することができた。

4. 今後に残された課題

- ・事務局の作業が膨大で負担が大きい。作業をどのように軽減していくか検討が必要。
- ・継続的に議論する必要であるため今後も開催すべく体制を整える必要がある。
- ・分科会により内容や議論の質に差がある。参加者が満足できるような内容を企画できる人材が必要。実行委員会メンバーも固定化され、増員が必要。
- ・参加者が積極的に議論に参加できるような分科会の運営が必要。
- ・より参加者を得るための企画のためのアイデア、広報等の仕掛けが必要。
- ・会場や講師の支援など実施するための協力体制を作ること。